

淡路夢舞台の創造的再生に向けたあり方検討 中間報告

淡路夢舞台の創造的再生に向けた基本的な考え方（案）

- ・ 新たなデザイン・コンセプト作成の考え方
- ・ 淡路夢舞台各施設に係る運営方針（案）

令和 7 年 9 月

企業庁/産業労働部/まちづくり部/土木部

淡路夢舞台の創造的再生に向けた基本的な考え方（案）

令和7年3月に策定した「県政改革の基本方針」を踏まえ、県では「淡路夢舞台の創造的再生」に向けて、今後のあり方についての検討を進めている。このたび、サウンディング型市場調査の結果や、外部有識者及び地元関係者等による議論などをふまえ、中間報告として「淡路夢舞台の創造的再生に向けた基本的な考え方（案）」をとりまとめた。

1 改革の基本方針（R7年3月策定）

- 大阪湾ベイエリアの新たな展開を見据え、地域の活性化を牽引する拠点として淡路夢舞台を創造的に再生する。
- このため、ホテル等の企業庁保有資産の維持管理・運営に民間活力を導入する。「資産譲渡」又は「運営権設定」を基本に検討を進める。
- この方針を踏まえ、公の施設群についても、既存の利用形態にとらわれず今後のあり方を検討する。その際、夢舞台としての一体的運用に意を用いる。
- 運営手法の決定にあたっては、淡路夢舞台の地域における公益的意義に留意するとともに、従業員の雇用確保を基本とし、関係者の意見も踏まえつつ丁寧に議論を進める。

2 検討の経緯

■「改革の基本方針」策定（R7年3月）

- 今後のあり方・運営体制の検討
- 関係課題の整理
- 地元関係者・関係機関等との調整

■サウンディング型市場調査 【時期】 R7.1月～4月 【参画】 12社

■夢舞台の創造的再生に向けた検討会

【時期】 ①6月、②8月、③10月～（予定）
【構成】 有識者・地元関係者等

■「中間報告」公表（R7年9月）

■淡路夢舞台の創造的再生に向けた「新たなデザイン・コンセプト」及び「運営方針」の策定（R7年度中）

3 「中間報告」の位置づけ

- 淡路夢舞台の創造的再生について、**県としての「基本的な考え方（案）」**を公表する
- 「考え方（案）」をもとに、地元関係者等の意見を踏まえ、議論を深めていく

4 「中間報告」における主な論点

- 淡路夢舞台の創造的再生に向けた**新たなデザイン・コンセプト作成の考え方**を整理
- 各施設の運営方針（案）**を提示

5 検討の視点

- 将来を見据えた**価値の「継承」と「新たな創造」**を通じた夢舞台の持続的な再生
- 淡路地域の活性化の核としての**拠点性・公共性の確保**
- 官民協働による持続可能な運営モデル**の構築
 - 財政負担の軽減、公的資産の有効活用
 - 民間の創造力・実行力を生かした柔軟かつ効率的な運営
 - 「民間投資の促進」と、「夢舞台の一体性・公共性の維持」を両立させる制度の設計

1 新たなデザイン・コンセプト作成の考え方①

1-1 開発時の淡路夢舞台コンセプト

背景
1990～

- 我が国初の24時間営業の国際ハブ空港 — 「関西国際空港開港」を控え、世界都市として、多極分散型国土づくりの先導役としての関西への期待が高まる
- とりわけ、大きなポテンシャルを持つ大阪湾ベイエリアは、①空の時代における‘現代の難波津’として、②再開発可能用地を生かした世界的中枢拠点として、③貴重な水辺における人間性回復の空間として、‘世界都市関西’形成のフロンティアとしての再生が期待された

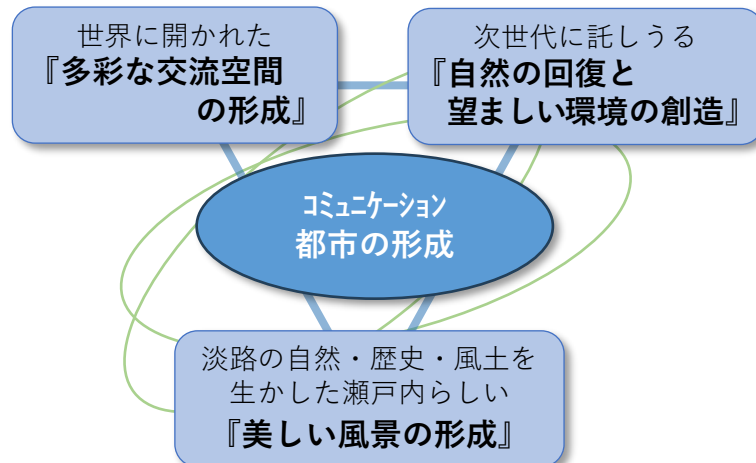
淡路島国際公園都市の中核施設－淡路夢舞台

◆「淡路島国際公園都市」構想（1992～）

明石海峡大橋開通も見据えつつ、大阪湾ベイエリアにおいて「世界に開かれた公園島」を先導する拠点を形成する

【理念】自然との対話、人との対話、世界との対話を通して、国内外の人々の心と文化が交流する「コミュニケーション都市」を形成する

【基本方針】



◆「淡路夢舞台」の開発コンセプト（1993～）

- 大阪湾ベイエリアにおける一大国際交流拠点として開発
- コミュニケーション都市をめざす「淡路島国際公園都市」の中核施設として、様々な夢が織りなす大スケールの夢舞台を創造するため、
 - 土砂採取跡地に緑の自然を復元
 - ダイナミックな斜面を有効利用して花と緑にあふれる美しい景観を形成
 - 人々が集い交流する主要施設を整備
- 阪神・淡路大震災で失われた命への鎮魂、自然環境の再生をテーマとした、創造的復興のシンボル・プロジェクト

◆「淡路夢舞台」開発への思い

- ✓花と緑と海が織りなす素晴らしい景観を最大限に生かしながら、真のコミュニケーションの心が大きく広がる施設群が見事に配置されています。まさに夢舞台と呼ぶにふさわしい感動のステージが実現。人と自然、人と人のコミュニケーションの輪が大きく広がっていくことは喜びにたえませんー兵庫県
- ✓淡路夢舞台を訪れる人々に、日常見過ごしてしまいがちな自然の様相をどれだけ感じ取ってもらえるか…。21世紀はもはや、放っておけば自然が環境を整えてくれる時代ではなく、一人ひとりが強い意志をもって、積極的に自然に働きかけながら、環境と共生していかなければならない時代です。2000年という節目の年に誕生した夢舞台。これから千年の時を超え、水と緑に囲まれて、人々に勇気を与え続ける場所に育ってほしいと願っています。

ー安藤忠雄氏

1 新たなデザイン・コンセプト作成の考え方②

1-2 新たなコンセプト作成に向けた基本的な考え方

背景
2020～

<時代潮流の変化>

- 本格的人口減少・少子高齢社会の到来
- 地方創生・活性化の推進
- インバウンド観光の拡大
- 持続可能性・気候変動・ビヨンドSDGsへの追求
- 公民連携によるサービスの質の向上と効率化
- DXの推進

<大阪湾ベイエリアの新たな展開－エリアへの注目度の高まり>

- ポスト大阪・関西万博(2025～)
- 神戸空港国際便就航(2025～)
- MICE施設開業：アクア姫路(2021) / ジーライオンアリーナ(2025) / 大阪IR(2030頃)
- ワールドマスターズゲームズ関西(2027)

- ◎世界からの人・モノ・投資の呼び込み
- ◎高付加価値で持続可能な観光・地域づくりへの好機

基本的な考え方



開発コンセプト(2000年開業)

◎守り引き継ぐべき価値
の評価・再定義

◎地域の課題を踏まえ、時代
の変化に応じた新たな価値の創造



次の30年を見据えた将来ビジョンの明確化と
デザイン・コンセプトの再構築

県の地域活性化方針等の反映

●兵庫県地域創生戦略(淡路地域の取組方針(2025.3))

【目指す姿】人と自然の良質な関係が「環」となって広がり、誰もが安心して暮らし続けられる環境豊かな島

●兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化基本方針(2023.3)

【淡路エリアの目指す姿】

国内外からの人の流れと交流を生み出し、人とのふれあい、本物の体験等を通じて、暮らしの本質を思い出し、原点へと立ち返る場や機会を創出

●ひょうご新観光戦略(2023.3/2025中間見直し中)

<課題への対応>

本物で上質な観光コンテンツを活かし、特にインバウンドの高付加価値旅行者を増やすなど、「量(宿泊者の数)」と「質(消費単価)」のバランスを図ることが必要

<見直しの方向性 2025.7時点>

- 大阪湾と瀬戸内を結ぶ東西の結節点である本県を旅の目的地に。本県を宿泊拠点として広域観光する新たな人の流れをつくる
- 主要拠点と着地・体験型コンテンツを繋ぎ、県内周遊・長期滞在・宿泊を促進

【キーワード】

□地域活性化・観光振興を先導する拠点性の強化

変化する社会環境・観光ニーズ等への対応／広域周遊拠点の形成
比類のない地域性・固有性・物語性の発揮(歴史・文化・安藤建築等)

□開発コンセプトのバージョンアップと公共的役割の再構築

- ◎コミュニケーション都市／自然の回復と多彩な交流空間形成
→SDGsの先を見据えた人と自然の新たな共生、SDGs実践の場
地域資源との連携のもと、本物の体験を通じた感動・共感・対話の場

◎震災30年を機に‘創造的復興’の理念を再認識。継承・発信の場

□県によるビジョンの明確化と、将来にわたる公民による共有・共創

2 各施設の運営方針（案）①

施設名

方針

方針検討の視点

一体的運用（運営協議会形式）

ホテル・展望テラス

ホテル
客室 201室
レストラン等を併設
展望テラス
フォーラム/回廊等
テラス内に事務所等
がテナント入居



※基本方針（R7年3月策定）
「資産譲渡」又は「運営
権設定」を基本に検討

民間への 資産譲渡 （土地＋建物）

※「ホテル等譲渡後も、夢舞台の一体性・公共性を維持し、持続的な投資を促す具体的手法のあり方」について、引き続き検討を進める

- **市場性・投資意欲（サウンディング調査の結果）**
中長期的な経営判断や事業展開の自由度等から、「土地と建物」一体での所有を希望する事業者が大勢を占める。
- **企業庁地域整備事業会計の早期健全化への貢献**
土地・建物の一体譲渡により、地域整備事業会計の早期かつ確実な改善効果が期待される。
- **民間投資の促進と地域活性化への効果**
民間事業者による長期的かつ安定的な経営判断を促すことで、施設改修やサービス向上に向けた投資意欲の喚起が期待される。これにより地域資源のより効果的な活用が進み、観光振興・地域活性化への波及効果が見込まれる。
- **夢舞台全体の一体性・公共性の維持確保**
譲渡後も、夢舞台の一体性を維持しつつ、公益性や施設の公共的価値を損なわない利活用を担保する仕組みが求められる。長期的な視点での対話・合意形成を継続し、社会変化に応じた再投資・再構築を促す枠組みの確保が重要。

淡路夢舞台 国際会議場

メインホール/レセプションホール/各種会議室/茶室 等



公の施設としての役割に区切りをつけ、民間事業者への譲渡を基本に、資産の有効活用を図る

- **周辺環境の変化に伴う県施設のあり方の見直し**
周辺地域において、同様の機能を持つ大規模施設が開設される中、「国内外の交流」を先導する拠点として、所期の目的・役割は概ね達成。次なる利活用フェーズへの転換が重要。
- **社会情勢等も踏まえたより有効な資産の活用**
社会情勢や利用ニーズの変化に対応しつつ、資産を有効に活用するため、民間事業者により柔軟な活用を図ることが重要。
- **県民負担の軽減**
施設の維持・管理や今後の更新に要する多額の県費負担を見直し、将来世代も含めた県民の財政的負担の軽減が重要。
- **市場性・投資意欲（サウンディング調査の結果）**
現状、民間事業者による施設保有への関心は高くないことから、民間活力導入に向けた条件や方法等について工夫を凝らすことが重要。

2 各施設の運営方針（案）②

一体的運用（運営協議会形式）

施設名

方針

方針検討の視点

百段苑

阪神・淡路大震災の鎮魂が込められた百マスの花壇



温室

（あわじグリーン館）

花と緑の感動創造・情報発信型ミュージアム



野外劇場

淡路島の空と海を背景とした円形劇場



灘山緑地

土砂採取跡地に緑を回復した都市公園



交流の翼港

新しい玄関口として整備した海の公園機能も備えた港



指定管理 継続

※民間事業者の創意工夫を発揮できるような公募を検討

● 市場性・投資意欲（サウンディング調査の結果）

資産譲渡又は運営権設定による運営に関心を示した事業者は限定的。運営のみに関心を示した事業者は複数存在したが、県による負担（指定管理料等）が前提。百段苑・温室に関しては、既存の利用形態にとられない利活用方法に関心を示した事業者も存在。

● 公共性の維持と「自然との共存」や「環境再生」の象徴

淡路夢舞台の公共性を維持し、広大な施設群の一体性の根幹をなすキーワードは「緑」や「環境」。淡路夢舞台のテーマである「自然との共存」や「環境再生」の象徴としての中核的施設群。

● 民間事業者の創意工夫の発揮

公共施設としてふさわしいにぎわいの創出とそれに伴う管理・運用の適正化を図るため、淡路夢舞台の新たなデザインに合わせて、より民間事業者の創意工夫を発揮できるような公募を検討。

● 利用者の拡大策や収益力の向上

更なる利用者の拡大策やそれに伴う収益力の向上を図るため、安定した管理運営方法等を検討。

● 市場性・投資意欲（サウンディング調査の結果）

資産譲渡又は運営権設定による運営に関心を示した事業者はなし。運営のみに関心を示した事業者は複数存在したが、県による負担（指定管理料等）が前提。

● 地方港湾としての公共機能の担保

国庫補助金を充当して整備した経緯等から、引き続き地方港湾としての公共性の担保が必要。

● 活性化、収益性の向上

民間事業者の公共的役割を前提にしつつ、マリンレジャーやクルーズ需要の高まりを踏まえた活性化、収益性の向上方策を検討。

※いずれの施設においても、県政改革方針に記載のとおり「従業員の雇用の確保を基本」とする。

ホテル・展望テラス／企業庁・まちづくり部

● 施設概要

[ホテル（グランドニッコー淡路）]

- ・ 201室/レストラン・宴会場・婚礼施設等を併設
- ・ 地上10階/地下2階（地下は駐車場のみ）
- ・ 企業庁から第三セクターである(株)夢舞台へ貸付

[展望テラス] ※ホテルと構造上一体不可分

- ・ 円形フォーラム/楕円フォーラム/山回廊/海回廊
- ・ テラス内には事務所やレストランがテナント入居
- ・ 主にまちづくり部から(株)夢舞台へ指定管理



グランドニッコー淡路

● 現状の課題認識

[現 状]

- ・ 経営努力により収益の状況（稼働率/ADR等）は一定向上しているものの、維持・修繕コストや建物賃料等、収支構造上の根本的な課題がある。急速に変化する経営環境（社会・経済・業界情勢）も踏まえ、運営手法を抜本的に見直し、柔軟かつ迅速な対応を確保することが重要
- ・ 老朽施設・インフラの大規模修繕、ホテルの価値や競争力向上に向けた大規模投資に加えて、外部環境の変化に応じた持続的投資の確保が必要
- ・ 地域整備事業会計の資金不足対策に向けて、早期かつ確実な資産整理が必要
- ・ 今後の持続的経営、ブランディング等に必要なノウハウ・投資を確保するため、県政改革方針（R7.3）において、「ホテル等の維持管理・運営に民間活力を導入することとし、『資産譲渡または運営権設定を基本に検討を進める』」ことを決定

[課 題]

- ・ 「資産譲渡」及び「運営権設定」の両案について多様な視点から検討し、最適な手法を選択する

ホテル・展望テラス／企業庁・まちづくり部

● 施設運営の方向性に関する主な意見（検討会/市場調査）

[検討会意見]

- ・土地・建物の一体的な譲渡が民間活力の発揮につながる。県が土地を保有することで政策的コミットメントを維持することはできるが、民間活力を阻害する可能性もあり、バランスが重要
- ・地域整備事業会計(企業庁)の早期健全化を図るためにも、土地・建物の一体的譲渡が望ましい
- ・今後、譲渡後の恣意的な転売抑止、長期的再投資の確保、ビジョン・コンセプトの共有等についての手法検討が重要

[市場調査結果]

- ・「資産譲渡」には複数事業者の関心あり。「運営権設定」への関心は限定的
- ・「資産譲渡」に関心を示す事業者の主な意見
 - 大規模な金銭的投資を伴う再生・グレードアップ等には不動産所有が必要
 - 柔軟且つ迅速な経営判断に基づく最適な投資には、土地・建物の所有が必要

● 今後の施設運営の方向性

[方向性とその考え方]

- ・サウンディング調査の結果を踏まえつつ、会計の早期健全化、民間投資の促進による地域活性化への一層の貢献等の視点から、ホテル及び展望テラスは、土地・建物を一体で民間譲渡し、新規事業者による創造的再生をめざす。

● 課題・留意点

- ・ホテル等の譲渡後も、夢舞台全体の一体性や公共性を維持し、継続的な投資を促す枠組みが重要となることから、その具体的手法のあり方については、引き続き検討を進める。

国際会議場／産業労働部

● 施設概要

[施設概要]

- ・ 地上 4 階/地下 1 階/茶室(敷地内別棟)
- ・ 海外賓客へ日本・兵庫・淡路の文化を伝える国際交流の場であり、国内外に開かれたコミュニケーション実践の場として整備 ※淡路島国際公園都市構想

[取り巻く環境]

- ・ アクリエ姫路やジーライオンアリーナ神戸、大阪IR計画など、近隣に大規模コンベンション施設が開業
- ・ 民間の観光、にぎわい施設が島内で多数開設



県立淡路夢舞台国際会議場

● 現状の課題認識

[現 状]

- ・ 近隣に同様の機能を持つ大規模施設、にぎわい施設の開設が進む
- ・ 稼働率は約25%程度で推移
- ・ 運営費として平均 2 億円強/年（大規模修繕費含む。指定管理料は約1.2億円/年）の県費負担が発生

[課 題]

- ・ 交流の場及びコミュニケーションの拠点として、本県が当会議場を運営する意義が相対的に低下
- ・ 周辺環境の変化を踏まえると稼働率の上昇は困難
- ・ 県費負担が過大

⇒ 民間活力を導入することで、既存の利用形態にとらわれない形で今後のあり方を検討

国際会議場／産業労働部

● 施設運営の方向性に関する主な意見（検討会/市場調査）

[検討会意見]

- ・今まで果たしてきた役割は大きいが、**整備当初とは時代や環境が大きく変化**しており、元のコンセプトのとおり役目を果たしていくのは、今後難しいのではないか
- ・運営費を利用料金収入で賄うには、最低でも60%台の稼働率が必要だが、より立地に優れた神戸市内の施設でさえ約40%である状況を踏まえると、**現状から収支を改善するのは難しい**だろう
- ・稼働率を60%台まで上げられる案があれば良いが、ないなら**施設のあり方そのものを検討すべき**と考える一方、既存予約への対応や今後どのように使われるかなどの方向性は現時点では不明瞭と理解

[市場調査結果]

- ・資産譲渡又は運営権設定による運営に関心を示した事業者は**限定的**
- ・運営のみに興味を示した事業者は多数存在したが、**県による費用負担（指定管理料等）が前提**

● 今後の施設の方向性

[主な考え方]

- ・昨今、周辺環境が変化し、施設の意義が相対的に低下していることを鑑みると、**県費負担が過重**。
- ・**新たな創意工夫を引き出すため、民間活力を導入**

[方向性]

- ・公の施設としての役割に区切りをつけ、民間事業者への譲渡を基本に、**資産の有効活用を図る**

● 課題・留意点

- ・現運営者である(株)夢舞台の**従業員の雇用確保**方策
- ・**既存予約済みの会議に対応**するための体制整備 など

国際会議場／産業労働部

● 収支の県財政への影響

【利用料金収入等（単位：千円）】

区 分	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
利 用 料 金 収 入 等 （ A ）	88,858	31,185	65,317	88,473	93,321	89,695
総 費 用 （ B ）	232,802	237,697	211,552	211,862	233,555	211,909
利用料金収入等割合（ $C = A / B$ ）	38%	13%	32%	42%	40%	42%
指 定 管 理 料 （ D ）	143,944	206,512	146,235	123,389	140,234	122,214

百段苑・温室・野外劇場・灘山緑地／まちづくり部

● 施設概要

[百段苑]

- ・ 阪神・淡路大震災被災者への鎮魂の祈りを込めて造られた百マスの花壇

[温室（あわじグリーン館）]

- ・ ジャパンフローラ2000(淡路花博)に合わせて建設
- ・ 花と緑と共に生きることの大切さ、すばらしさを五感に訴える感動創造・情報発信型ミュージアム

[野外劇場]

- ・ すり鉢状の客席は3,000人収容可能で、淡路島の空と海を背景とした円形劇場

[灘山緑地]

- ・ 関西国際空港の土砂採取跡地であった法面に緑を回復するために整備した都市緑地（都市公園）



百段苑



温室（あわじグリーン館）

百段苑・温室・野外劇場・灘山緑地／まちづくり部

● 現状の課題認識

[現 状]

- ・ 百段苑はホテル宿泊客や観光客等が、**眺望と花風景を楽しむ散策場所**として利用
- ・ 温室は年間利用者数10万人。季節に応じた**企画展の実施や環境学習等**に利用（令和6年度に大規模修繕を実施）
- ・ 野外劇場は**ダンスや音楽のイベント等**に年間30件利用
- ・ 灘山緑地は「**自然との共存**」や「**環境再生**」を象徴する都市緑地として維持

[課 題]

- ・ 公共施設としてふさわしい**賑わいの創出**とそれに伴う**管理・運用の適正化**
- ・ 温室を除く施設は、**老朽化に伴う計画的な修繕**

⇒各施設の位置づけを念頭におきつつも、民間事業者や有識者による意見等を踏まえ、より良い運営の方法があるかどうか、既存の利用形態にとらわれずに検討



野外劇場



灘山緑地

百段苑・温室・野外劇場・灘山緑地／まちづくり部

● 施設運営の方向性に関する主な意見（市場調査/検討会）

[検討会意見]

- ・夢舞台施設の活性化のために、**温室、野外劇場、百段苑、灘山緑地の公共的な役割は重要**
- ・都市公園である灘山緑地は、グランピング等の民間提案を受けるなど、**収益力向上**を図るのも一案

[市場調査結果]

- ・資産譲渡又は運営権設定による運営に関心を示した事業者はなし
- ・運営のみに興味を示した事業者は複数存在したが、**県による費用負担（指定管理料等）が前提**
- ・既存の利用形態にとらわれない利活用方法に関心を示した事業者も存在

● 今後の施設の方向性（中間報告時点）

[主な考え方]

- ・淡路夢舞台の公共性を維持し、広大な施設群の一体性の根幹をなすキーワードは「**緑**」や「**環境**」
- ・まさに、淡路夢舞台のテーマである「**自然との共存**」や「**環境再生**」の象徴としての中核的施設群

[方向性]

- ・今後も公の施設として維持する必要があることから、民間による**指定管理（公の施設）**で運営
- ・淡路夢舞台の新たなデザインに合わせて、より**民間事業者の創意工夫を発揮**できるよう**公募**を検討

● 課題・留意点（中間報告時点）

- ・**利用者の拡大策**やそれに伴う**収益力の向上**による**安定した管理運営方法**の検討 など

交流の翼港／土木部

● 施設概要

- ・ 淡路島国際公園都市への新しい玄関口として整備
- ・ 海の公園としての機能も備えた港
- ・ 国庫補助金を充当して整備した地方港湾
- ・ 潮流、海浜部の保全、水生動植物の生態系へ配慮し、沖出し式（人工島式）として整備
- ・ 近年のクルーズ船等の諸元に対応可能な浮き栈橋等の改修を実施（R4年度からR6年度）



淡路交流の翼港

● 現状の課題認識

[現 状]

- ・ 整備当時（H12）以降、**マリンレジャーやクルーズ需要が増加**（コロナ禍で一時激減したが、近年は回復傾向）
- ・ H17.3に「海の駅」に登録され、背後地にホテルやレストランを有する**マリンレジャーの振興拠点として、クルーズ船やプレジャーボート等の寄港に利用**
- ・ 高速道路網の発達により、淡路島－本土間の定期旅客航路の需要は低下
- ・ 国庫補助事業として整備した地方港湾であり、現在も遊覧船の避難港として利用されるなど、**公共性を有している**

[課 題]

- ・ **公共性を有する地方港湾としての位置づけの中でのマリンレジャーやクルーズ需要の高まりを踏まえた活性化及び収益性の向上**
- ⇒ **施設の位置づけを念頭に置きつつも、民間事業者や有識者による意見等を踏まえ、より良い運営方法があるかどうか、既存の利用形態にとらわれずに検討**

交流の翼港／土木部

● 施設運営の方向性に関する主な意見（検討会/市場調査）

[検討会意見]

- ・ ベイエリアの活性化を見据え、**大阪湾と瀬戸内圏の結節点**として、方針次第では期待できる施設
- ・ 公共的な役割や国庫補助の仕組みを考えると、**県が保有することが必要**

[市場調査結果]

- ・ 資産譲渡又は運営権設定による運営に関心を示した事業者はなし
- ・ 運営のみに興味を示した事業者は複数存在したが、**県による費用負担（指定管理等）が前提**
- ・ ホテル事業との親和性は低いと考えられ、ホテル事業者による運営は負担が大きくなり過ぎる

● 今後の施設の方向性

[主な考え方]

- ・ 大阪湾等の近海を航行するクルーズ船等が利用する**マリンレジャーの拠点**として、公共的役割・価値あり
- ・ 国庫補助金を充当して整備した経緯から、引き続き**地方港湾としての公共機能を担保**しなければならない

[方向性]

- ・ 公共的役割を果たす施設として今後も維持する必要があることから、**指定管理（公の施設）**で運営

● 課題・留意点

- ・ 公共的役割を前提にしつつ、**マリンレジャーやクルーズ需要の高まりを踏まえた活性化、収益性の向上**
- ・ 背後地である**夢舞台他施設との連携方法や効率的な運営方法の検討**

(参考) 淡路夢舞台の創造的再生に向けた検討会

● 外部有識者

分 野	氏 名	役職名
公園緑地	赤澤 宏樹	兵庫県立大学教授
P P P / P F I	上村 敏之	関西学院大学教授
企業財務	辰巳 八栄子	辰巳公認会計士事務所公認会計士
建 築	橋爪 紳也	大阪公立大学特別教授
観 光	古田 菜穂子	ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサー
関係施設	三井 雄一郎	国営明石海峡公園事務所長
地元市町	植松 浩二	淡路市副市長

● オブザーバー（庁内関係者）

職 名	分 野
企画部	ベイエリア活性化
観光局	観光戦略・資源
淡路県民局	地元機関

● 事務局

部局名	所管施設
企業庁	ホテル等
産業労働部	国際会議場
まちづくり部	百段苑、温室、灘山緑地等
土木部	交流の翼港